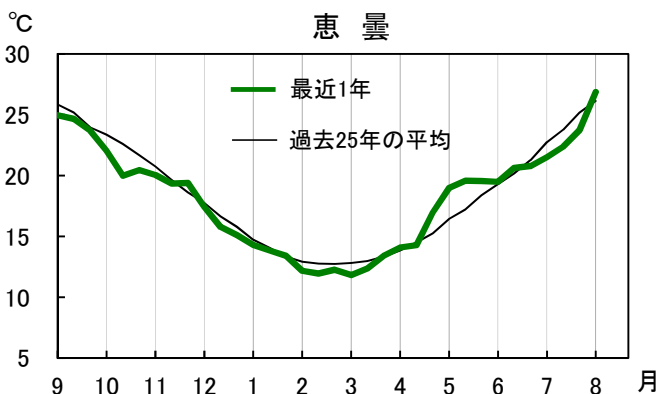
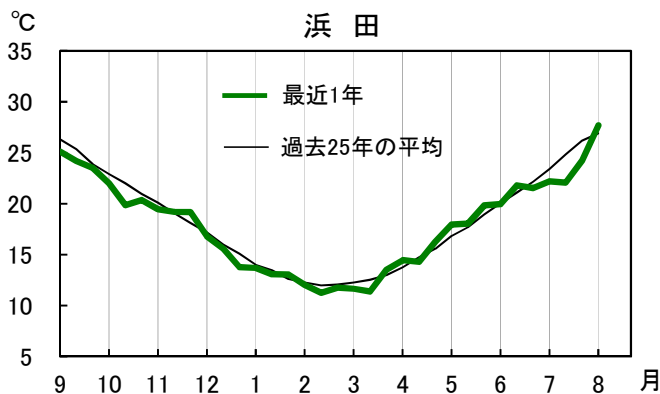




《7～8月の海況》

7月	月平均	平年差	評価
浜田	22.9℃	-2.0℃	はなはだ低め
恵曇	22.6℃	-1.4℃	かなり低め

沿岸定地水温は、浜田地区では7月は上旬が「やや低め」、中旬が「はなはだ低め」、下旬が「やや低め」と低め傾向で推移しました。一方、恵曇地区では7月は上・中・下旬とも「やや低め」で推移しました。8月に入り上旬時点で両地区とも「平年並み」で経過しています。



《7月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類、マイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は18.3トンで平年を上回りました。全漁獲量の内、主体であるマアジは260トンで平年並みでしたが、サバ類が95トンで1.6倍、また例年漁獲されないマイワシが80トン漁獲されました。西郷、浦郷地区ではマアジ、マイワシ、ブリ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量はそれぞれ51.4トン、42.4トンで平年を上回りました。全漁獲量の内、両区ともマイワシの漁獲量が多く、それぞれ1千～3千トンと平年の10倍以上となり、全漁獲量の60%以上を占めました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ（全体の58%）とスルメイカ（全体の42%）が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は126kgで平年並みでした。一方、西郷地区（属人5トン以上）でもケンサキイカ（全体の82%）とスルメイカ（全体の18%）が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は25kgで平年を下回りました。

【ばいかご漁業】

石見地区のばいかご漁業における総漁獲量は27.7トン、1隻1航海当りの漁獲量は694kgで平年並みでした。また主漁獲対象であるエッチュウバイの漁獲量は23.4トン、1隻1航海当りの漁獲量は586kgで平年並みでしたが、漁獲金額は平年を上回りました。銘柄「大」を主体に漁獲されています。

【しいら漬漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は1.7トンと平年の約1.7倍となりました。全漁獲量でみると、主体となるシイラは75トンで平年の1.2倍、例年シイラとともに漁獲されるヒラマサが9トンで平年の3倍の漁獲量となりました。

【定置網漁業】

石見地区ではその他のマグロ類、マアジ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りでは主体であるマグロ類が平年の7倍、マアジが1.4倍、ケンサキイカが3倍でしたが、ブリ、カワハギ類を含む多くの魚種が平年並みとなり、全統の総漁獲量は77トンで平年並みとなりました。出雲地区ではサワラ類、その他のマグロ類、マアジ主体の漁況で、1統当りではサワラ類が平年の4倍、マグロ類が13倍、マアジが1.3倍であり、その他の魚種も多くが平年を上回ったため、全統の総漁獲量は484トンで平年を上回りました。隠岐地区ではマアジ、サバ類、ブリ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の2倍、サバ類が2.7倍でしたが、全体的に見ると全統の総漁獲量は106トンで平年並みとなりました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は27kgで平年を上回りました。石見地区でケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は24kgで平年を上回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイ、ケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は17kgで平年を下回りました。全地区で漁獲の主体となったケンサキイカの漁況は、出雲・石見地区では平年を上回りましたが、隠岐地区では平年を下回りました。

【平成 26 年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類、マイワシ	456トン	241%	137%	18.3トン	337%	201%	◎
	西郷	マアジ、マイワシ、ブリ	4,063トン	119%	172%	51.4トン	162%	200%	◎
	浦郷	マイワシ、マアジ	2,020トン	87%	135%	42.4トン	149%	162%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	22トン	36%	58%	126kg	68%	82%	○
	西郷	ケンサキイカ、スルメイカ	1トン	19%	13%	25kg	71%	56%	▲
ばいかご	大田管内	エッチュウバイ	23トン	83%	90%	586kg	85%	112%	○
しいら漬け	和江	シイラ	30トン	99%	126%	2.1トン	106%	192%	◎
定置網 (大型)	浜田	-	-	-	-	-	-	-	-
	美保関	マアジ、サワラ類、ケンサキイカ	150トン	388%	181%	1.5トン	392%	187%	◎
	浦郷	マアジ、サバ類	55トン	334%	144%	1.9トン	311%	141%	◎
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、その他のハタ類(クエ主体)	16トン	185%	127%	31kg	144%	128%	◎
	大社	ケンサキイカ、マアジ	8トン	123%	124%	15kg	109%	105%	○
	西郷	カサゴ・メバル類、キダイ	4トン	58%	33%	22kg	105%	88%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした。

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成27年8月21日

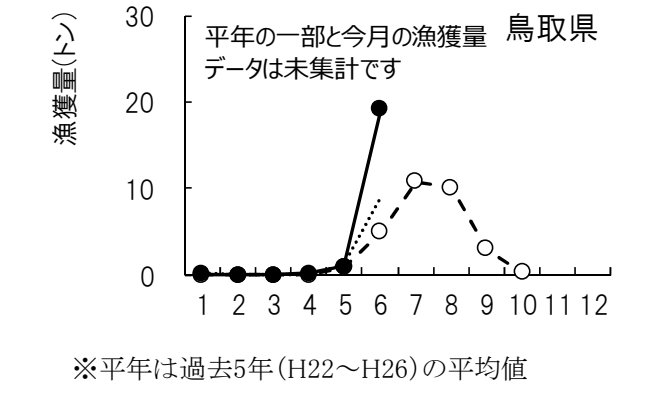
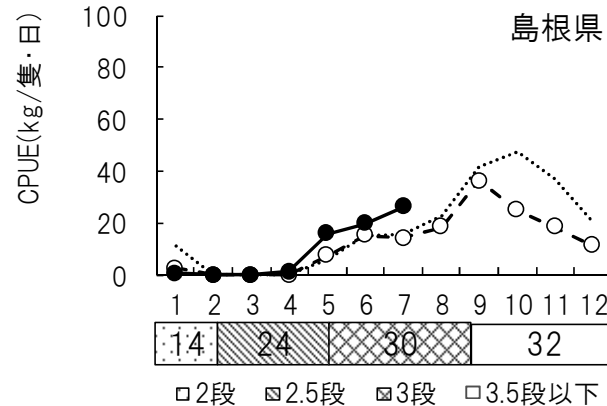
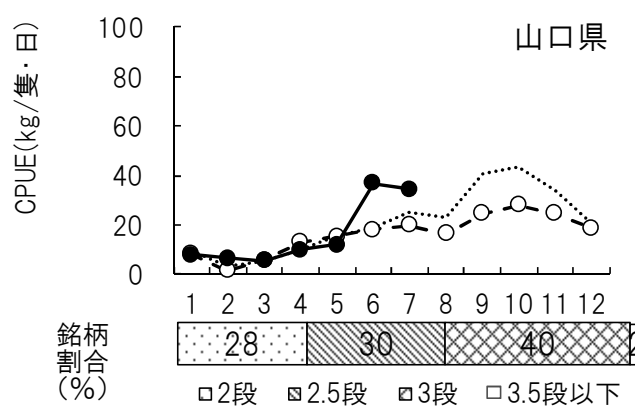
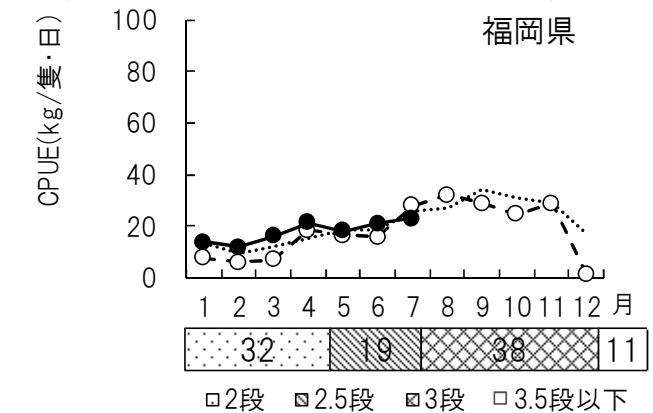
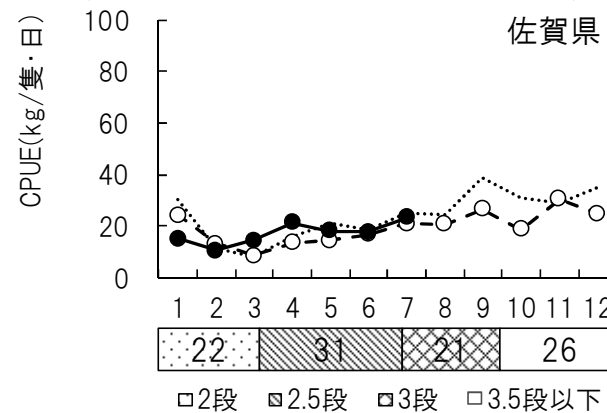
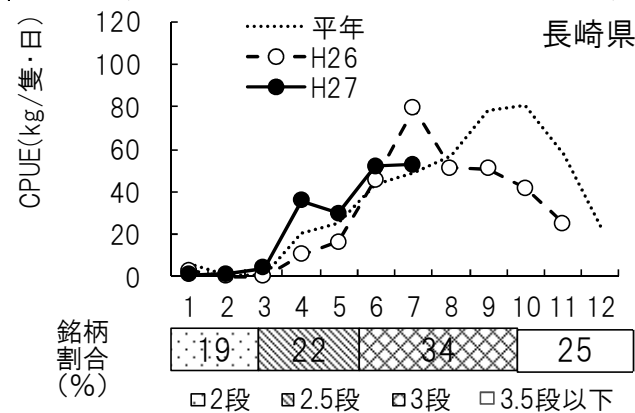
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：7月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県では平年を下回りましたが、佐賀県～島根県は平年並み～平年を上回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	漁獲量は前年、平年を大きく下回りました(前年比65%、平年比57%)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年を上回り、平年を下回りました(前年比130%、平年比87%)。	福岡県	代表港の漁獲量は前年比97%、平年比78%と好調でした。
山口県	代表2地区の漁獲量は前年・平年を上回りました(前年比223%、平年比122%)。	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は82トンでした(前年比110%、平年比118%)。	鳥取県	6月までの水揚げ量は前年、平年を上回りました(前年比337%、平年比194%)。7月分の漁獲量については集計中です。



Ⅱ：8月上旬の底層水温

長崎県	五島西沖底層水温は低め基調で平年並みでした。	佐賀県	壱岐水道の底層水温は、22.0～24.2℃で平年並み、対馬東海道は14.9～22.9℃で平年並みから甚だ高めでした。	福岡県	沖合域の底層は16～18℃台で平年並みとなっています。
山口県	底層水温は冷水域を除き15～21℃台でほぼ平年並みでした。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深80～140mが7.6～17.7℃、それ以深が2.4～3.4℃でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は15℃前後で、先月と変わらない値となっています。

底層の水温分布図
 大きい数字：水温
 小さい数字：水深

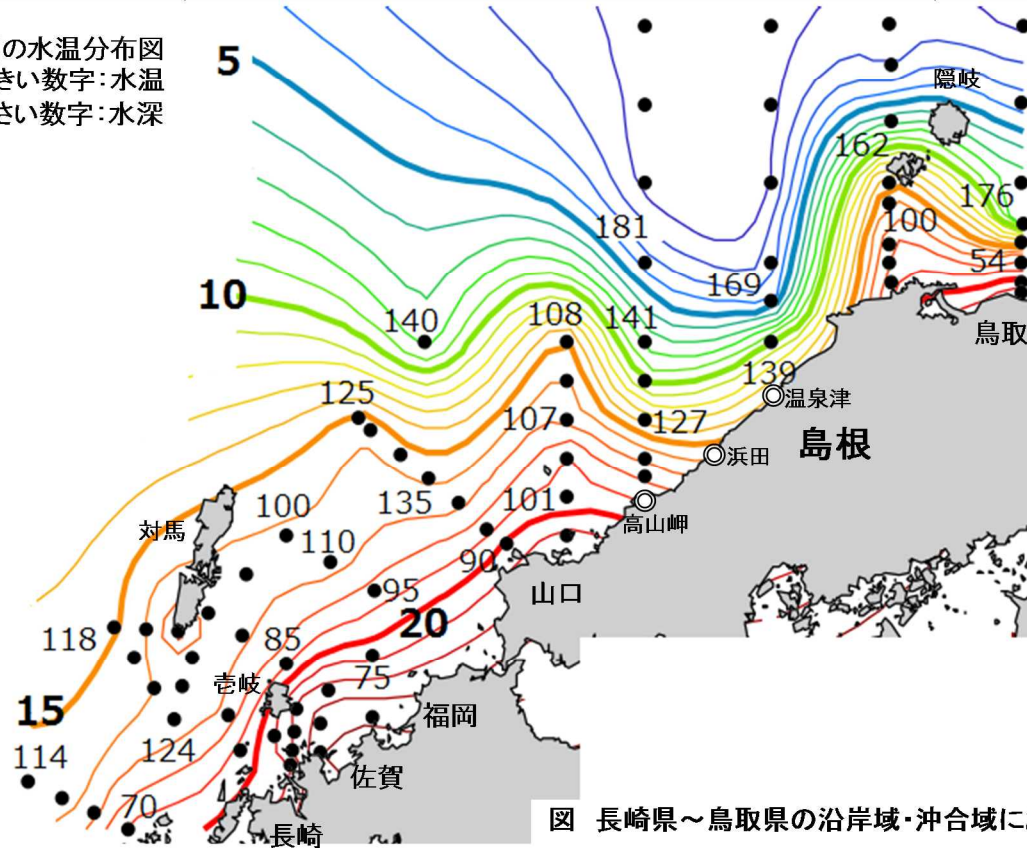


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図